

チャレンジ工房News

第 36 号

平成 26 年 3 月 発行

発行先 パソコン工房チャレンジ

編集責任者 曲 圭子

工房の日々 ～オリジナルポストカード作成～

先月号でも紹介したように、今後の工賃仕事の一つにつながれば
と思い、先月のキューズモールでの「モノづくりの絆市」を機に当
工房オリジナル「ポストカード」の制作・販売に取り組んでいます。

「絆市」のもとになった「モノづくりデザイン講座」に参加を職
員研修として申し込んだときは、「2月の販売会で売れるような
自主製品はないから、販売会もいつものように、東北の障害者作業
所の物品だけ売ればいいわ」と思っていました。

二回目の講座以降、実際に販売会で販売する商品を各施設ごと
に持ち込み、ディスプレイやラッピング方法などを考えていく講座
内容に入っていました。

クッキーやパンを製造・販売している作業所はもちろん、同じパ
ソコン関係の作業所もパソコンで作成した「缶パッチ」などの販売
会で実際販売するオリジナル商品を持って来られるなどの講座に参
加されていた工房以外のすべての作業所は自主製品を持たれての参
加だったので、私自身この講座に参加したことでかなりの刺激に受
けました。

私自身、「2月の販売会までには、所員・スタッフの趣味やパソ
コン技術を生かして、何かの工房オリジナル製品を創り出すことはで
きないか」と強く思うようになり、スタッフ間で色々思案してみた
ところ「所員さんやスタッフが趣味で撮ってきた風景や花などの写
真をPhotoshopやイラストレーターでアレンジをし、ポストカード
にしてみることを考えつきました。

工房のオリジナル製品を生み出し、販売することは初めての試みだったので、「どんな写真を使って、どんなア
レンジをすれば、売れるのか」「手紙離れしている時代に、果たしてポストカード自体売れるのか」と半信半疑で
試作品のサンプルを作る日々が続きました。

先月の「絆市」での販売会では、15種類のポストカードの60枚近く印刷していき販売して、約半分以上のポ
ストカードを売り上げることができたので、とても嬉しかったです。

これをいい機会として、「尼崎のさくら」や「京都のお寺」などのシリーズ化した何枚かのセットにしたポ
ストカードを作成・販売したり、カレンダーやポチ袋などの新たな工房のオリジナル商品開発に取り組み、少しでも
今後の工賃仕事に繋げていきたいと思っています。

貴方だけのポストカードお作りします・・・

貴方のデジカメで撮った「お気に入りの一枚」をアレンジしてポストカードにします。

デジカメで撮った「お気に入りの写真」や結婚式など記念日の写真・大切なお子様の写真を画像ソフトでお好み
のデザインにアレンジし格安で貴方だけのオリジナルなポストカードをお作りします。

お気に入りの一枚を大切な方にメッセージカードとして、贈ってみませんか？



- ・料金 500円(画像処理料・ポストカード5枚)
6枚目以降は、1枚付き50円頂きます。

- ・お問い合わせ先 パソコン工房チャレンジ 担当:曲(まがり)
電話: 06-4981-8120
メール: challengeama@yahoo.co.jp

3月・4月の予定



3/8(土) うす潮まつり出店参加

10:00～13:00

※バタークッキー・当工房オリジナルポスト
カード等、約6000円の売り上げがありま
した。有難うございました。

3月中旬～下旬 来年度契約更新・

研修プログラムの見直し

※今月中旬より、所員さん一人ひとりと面接を
行い、研修プログラムの見直しをします。

所員の皆さんは協力お願いします。

4/1(火) 花見会 (予定)

新スタッフ・新所員歓迎会

12:00～14:00

水明公園にて

お花見会のご案内

当工房も運営主体の尼崎障害者センターの会員の方々をはじめ、大庄地域の方々、所員さんと本当に多くの方のご支援を頂き、この4月をもちまして開所4年目を迎えようとしています。

所員・スタッフ一同、心よりお礼申し上げます。

来る4月1日、日頃お世話になっている方々、所員・スタッフの家族・友人の方々などを交えての当工房の関係者の親睦を図るための花見会を企画しております。

春の日差しが降り注ぐ桜の下で、皆さんと工房の開所当時のことを振り返るとともに、世間話やビンゴゲームなどを楽しみ、より一層の親睦を深めたいと思っています。

当日のサンドイッチ等の軽食・飲み物や楽しいゲームをご用意してお待ちしています。

- ・日時 12:00～14:00 (11:45 頃、チャレンジ工房集合)
- ・場所 水明公園



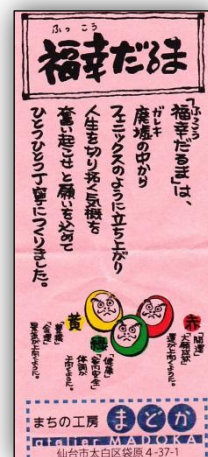
東北作業所の物品販売にご協力下さい・・・

当工房では、開所当時より私たちにとってまだ浅い記憶の中にある「阪神大震災」での早期の復興を支えて頂いた「一つの恩返し」として、「東北で被災した障害がある仲間に役に立ちそうなことで・・・私たちにも出来そうなことはないかなあ・・・」と思い、運営主体の障害者センターの「東北障害者作業所の物品販売事業」に協力して、工房の活動の1つとして取り組んでいます。

ちょうど、今月の11日で震災から3年の月日が経ちましたが、まだ被災地では仮設住宅に暮らす方も多く、枯れ木などの撤去もあまり進んでないようで、完全復興までには気が遠くなるほど、ほど遠いようです。

でも東北の方々の堪えない「頑張り」があって、確実に復興の日差しが少しずつ見えてきているみたいで、販売事業の取引先の作業所の仲間・スタッフの方々も「一日でも早く震災前の生活に戻りたい・・・」という思いで頑張っておられます。

この販売事業を通じて、東北の仲間の「頑張り」「思い」を一人でも多くの方に伝えていくことができればと考えています。



工房地球村 「イチゴジャム」

宮城県山元町にある作業所で震災前は、地元のイチゴ農家と契約して、主に「イチゴジャム」の生産に取り組まれていたようです。

津波により、契約しているイチゴ農家は流され全滅されたみたいですが、「イチゴ農家が復活して、再びジャムを作れるようになりたい」という思いで、震災後もイチゴ模様が入った

「手ぬぐい」や「石鹸」を生産されていました。

そんな思いが実り、今年ようやく「イチゴ農家」が全面的に復活されて、作業所も本格的にイチゴジャム生産・販売を再開されます。

昨年暮れの「ゆく年・くる年」でも山元町のお寺が紹介されたときに、お供え物として、皿に盛られていた「イチゴ」が映し出されたのをみていたとき、「もしかして・・・このいちごは・・・」と思って、私も自分のことのように感じ、とても嬉しかったです。

今、障害者センターでは300個のイチゴジャムの予約注文をしてもらうことを目標に、今月いっぱいまで「イチゴジャム」や作業所「まちの工房 まどか」の「福幸だるま」などの東北の作業所の物品購入のご予約を受け付けております。是非、予約購入して頂きますようよろしくお願い申し上げます。

